

インテリジェント
モニタリング
ソフトウェア

インストールガイド
ソフトウェアバージョン 1.4 以降

RealShot Manager Advanced

IPELA

目次

著作権について	2
RealShot Manager Advanced の特長	3
動作環境	4
ソフトウェアについて	5
RealShot Manager Advanced (Server) と	
RealShot Manager Lite	5
RealShot Manager Lite の機能制限について	6
RealShot Manager Advanced (Client) から	
NSR-500 シリーズに接続する際の	
機能制限について	6
システム構成例	7
構成例 1	7
構成例 2	8
構成例 3	9
エンドユーザーライセンス契約	10
MPEG-4 Visual Patent Portfolio License	
について	11
使えるようになるまでの流れ	12
ソフトウェアをインストールする	13
サーバーとして使う場合の準備をする	16
RealShot Manager Lite の場合	16
RealShot Manager Advanced (Server)	
の場合	17
個別に設定が必要な項目について	23
動作確認を行う	23
クライアントとして使う場合の準備をする	24
ログオンする	24
カメラをモニターフレームに割り当てる	25
カメラ画像をモニタリングする	26
画像を記録・検索・再生する	27
ライブ画像を記録する	27
記録画像を再生する	28
記録画像を検索する	28
検索結果から再生する	29
ソフトウェアを終了する	30
ソフトウェアをアンインストールするには	30
RealShot Manager Advanced を	
アンインストールする	30
PostgreSQL をアンインストールする	30
データを削除する	30
トラブルシューティング	31
ログについて	31
エラーメッセージ	31
その他	32

著作権について

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよびユーザーガイドの内容の全部または一部を複写すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負い兼ねます。このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

その他、各種 Copyright については、RealShot Manager Advanced のインストールフォルダーの下の「copyright」フォルダーにある「Copyright.pdf」をご覧ください。

商標について

“IPELA” および **IPELA** は、ソニー株式会社の商標です。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で ®、™ マークは明記しておりません。

RealShot Manager Advanced の特長

RealShot Manager Advanced は、ネットワークカメラ（IP カメラ）用の多地点モニタリングシステムソフトウェアです。RealShot Manager Advanced をコンピューターにインストールして簡単な設定をするだけで、ネットワークを介して複数台のカメラを管理し、画像のモニタリングや記録の検索・再生、カメラの操作などが行えます。

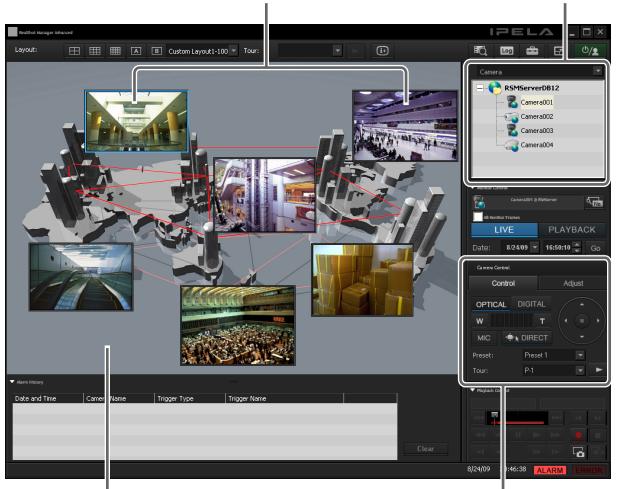
RealShot Manager Advanced には、以下の特長があります。

複数台のネットワークカメラの画像を同時に表示

RealShot Manager Advanced の画面には、複数台のネットワークカメラの画像を同時に表示できます。使用環境や目的に応じて、RealShot Manager Advanced の画面に表示するモニターフレームの数や大きさ、配置などのレイアウトを自由に設定でき、画面の背景には、地図やフロアの間取り図などの既存のデータを取り込んで利用することもできます。パン、チルト、ズームなどのカメラの操作は、モニターフレームからカメラに個別にアクセスして行います。

各カメラの画像を記録できます。

複数台のカメラの画像を同時に表示できます。



モニターフレームの数や大きさ、配置、背景などのレイアウトが可能です。

カメラのパン、チルト、ズームを遠隔管理できます。

詳細な記録スケジュール機能と多彩な記録モード

カメラ 1 台ごと、またはグループ単位で記録スケジュールを設定し、画像を記録できます。動体検知や外部センサーなどのアラーム発生により記録を開始させることもできます。また、モニターフレームから手動でカメラの画像を記録することも可能です。記録した画像は、ビデオや DVD プレーヤーなどと同様の操作で再生でき、記録中の画像を追いかけ再生することができます。

詳細なカメラ設定やカメラの管理、コントロールが可能

カメラを設置している地域やフロアごとにカメラグループを設定し、効率良く管理できます。カメラ 1 台ごとに、画質や解像度などが設定でき、アラーム発生時やイベント時には、パン、チルト、ズームなどのカメラの操作を直接行うことができます。また、カメラポジションをプリセットしておき、必要なときに呼び出すこともできます。

ソフトウェアによる動体検知機能を搭載

RealShot Manager Advanced による動体検知が可能です。動体検知の設定を時間ごとに切り替えるようにスケジュールを設定できるので、夜間と昼間とで自動的に設定を切り替えるなど、様々な運用が可能です。

また、カメラの動体、または不動体検知機能にも対応しています。

カメラからのメタデータを用いたフィルタリング機能

カメラから配信される画像処理結果である物体情報のメタデータを用いた各種フィルタリングを行うことによって、高度なアラーム処理が可能となりました。記録済みのメタデータに対してもフィルタリングが可能なため、記録後に、気になる部分について検索できます。

その他の機能

- JPEG と MPEG4/H.264 に対応しています（ただし、カメラが対応しているビデオコーデックに依存します）。
- カメラのマイクや音声入力用デバイスからの音声のモニタリングや記録、再生ができます。
- カメラごとに、記録の保存場所を指定できます。
- 再生開始時刻を指定して、複数の記録データを同時に再生できます。
- 運用を止めることなく、自動的にデータベースの最適化が行われるため、長期にわたる連続運用が可能です（本バージョンの RealShot Manager Advanced では、データベースに PostgreSQL を使用しています）。

ご注意

- RealShot Manager Lite では、機能や接続できるカメラ台数などに制限があります。詳しくは、「RealShot Manager Lite の機能制限について」（6 ページ）をご覧ください。
- RealShot Manager Advanced (Server) では、ライセンスによりカメラを 32 台まで接続できますが、ハードウェアの性能や使用環境によってパフォーマンスに影響がありますので、必ず試用してから運用するようにしてください。
- ライセンスは、RealShot Manager Advanced (Server) をインストールして使用するコンピューターの固定ライセンスとなっています。必ず使用するコンピューターを決めてから、ライセンスを購入してください。なお、ライセンスの取得後にハードウェア構成を変更した場合、ライセンスファイルが無効になることがあります。その場合は、ライセンスをご購入いただいた「ソニー業務用製品」の特約店にご相談ください。

動作環境

RealShot Manager Advanced の動作環境や対応機器については、ソフトウェアのリリースノートをご覧ください。

ソフトウェアについて

RealShot Manager Advanced には、用途に応じて、以下のソフトウェアが用意されています。

- **RealShot Manager Advanced (Server)**

サーバーとして動作し、ネットワークを介して最大 32 台のカメラを管理します。画像のモニタリングや記録の検索・再生、カメラの操作など、RealShot Manager Advanced のすべての機能が使用できます。なお、コンピューターにインストールした RealShot Manager Advanced (Server) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。

- **RealShot Manager Lite**

サーバーとして動作し、画像のモニタリングや記録の検索・再生、カメラの操作など、基本的な機能は備えていますが、一部の機能や接続できるカメラ台数などに制限があります。詳しくは、「RealShot Manager Lite の機能制限について」(6 ページ) をご覧ください。RealShot Manager Lite は、ライセンスの購入は必要ありません。

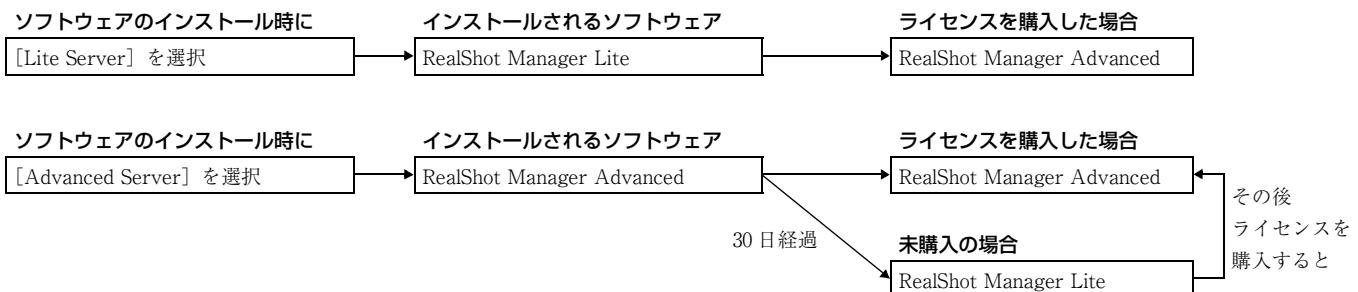
- **RealShot Manager Advanced (Client)**

RealShot Manager Advanced (Server) や RealShot Manager Lite、NSR-1000 シリーズ、NSR-500 シリーズのリモートクライアントとして使用します。RealShot Manager Advanced (Client) は、ライセンスの購入は必要ありません。

RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Lite

ソフトウェアのインストール時にどちらをインストールするかを選択しますが、RealShot Manager Lite をインストールした後でも、RealShot Manager Advanced (Server) にアップグレードできます。

ソフトウェアをインストールした後の RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Lite の関係は、次のようになります。



メモ

- RealShot Manager Advanced (Server) でインストールした後、30 日経過して RealShot Manager Lite になった場合、カメラ数や機能に制限が発生します。詳しくは、「RealShot Manager Lite の機能制限について」(6 ページ) をご覧ください。
- RealShot Manager Lite から RealShot Manager Advanced (Server) にアップグレードした場合でも設定は引き継がれます。

- ライセンスのご購入については、お近くの「ソニー業務用製品」を取り扱っている特約店へご相談ください。インストール後、30日以内に購入されることをおすすめします。

RealShot Manager Lite の機能制限について

RealShot Manager Lite には、以下の機能に制限があります。

機能	RealShot Manager Lite	RealShot Manager Advanced (Server)
カメラ数 (最大)	9	32
対応カメラ	ソニー製のカメラのみ ¹⁾	ソニー製以外のカメラにも対応 ¹⁾
セントラルサーバーモード ²⁾ (マスター／スレーブ)	×	○
Video Motion Detection (レコーダー)	×	○
Video Motion Filter (メタデータによる動体検知)	×	○
オブジェクト検索 ³⁾	×	○
アラーム出力	×	○
マニュアルアクション	×	○

○：対応 ×：非対応

- RealShot Manager Lite では、カメラ以外の他社製デバイスにも対応しておりません。音声デバイスなど、他社製のデバイスを使用する場合、は RealShot Manager Advanced をお使いください。
- 複数台のサーバー (NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズ、RealShot Manager Advanced (Server)) で共通のユーザー管理を行いたい場合や、RealShot Manager Advanced (Client) から接続したい場合に使用する機能です。
- すでに記録されている画像に対して、Video Motion Detection (レコーダー) の動体検知機能や Video Motion Filter の機能を使って行う検索です。

RealShot Manager Advanced (Client) から NSR-500 シリーズに接続する際の機能制限について

NSR-500 シリーズ本体側に機能が備わっていないため、以下の設定および機能が使用できません。

設定・機能

- Video Motion Filter (VMF) 設定¹⁾
- Video Motion Detection (VMD) (レコーダー) 設定
- マスク設定
- オブジェクト検索
- ノーマル検索の一部²⁾

- VMF 検知機能を持つカメラで VMF 設定をカメラ側で行った場合、VMD (カメラ) の VMF 設定でその VMF 検知をトリガーとして使用することは可能です。
- アラーム記録およびイベント記録で、VMF、VMD (レコーダー) は検索できません。

システム構成例

RealShot Manager Advanced では、規模や用途に合わせて、次のようにシステムを構成します。

本書では、RealShot Manager Lite 固有の内容についてのみ「RealShot Manager Lite」と明記しています。共通の内容については、「RealShot Manager Advanced」と記載しています。

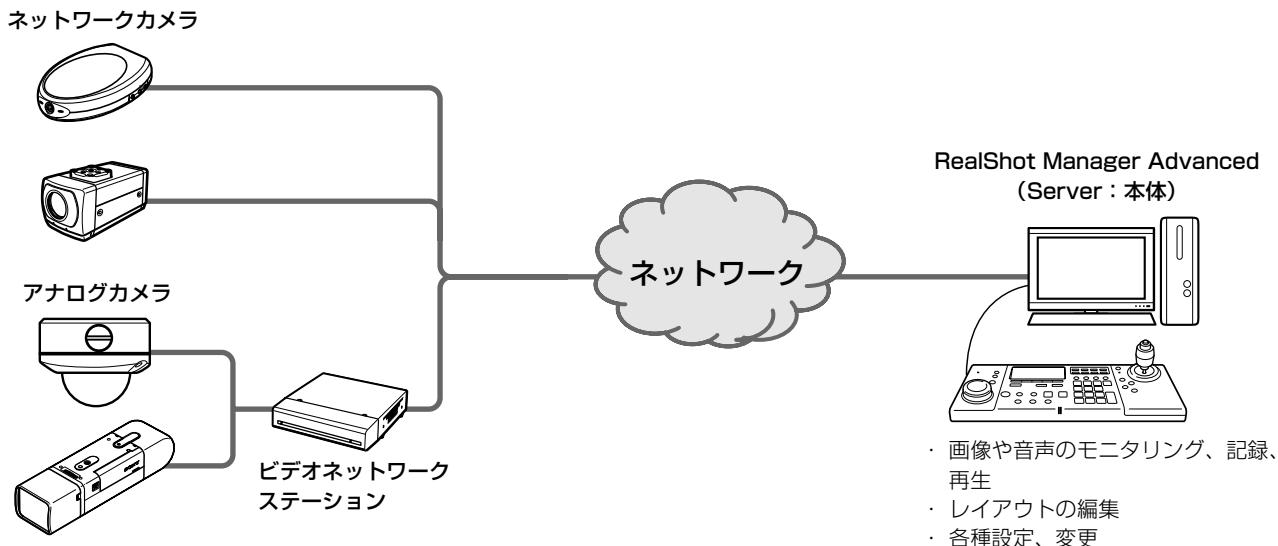
ご注意

RealShot Manager Advanced に登録して運用しているカメラに対して、ほかの RealShot Manager Advanced や NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズ、Web ブラウザでの利用は避けてください。誤動作の原因になる恐れがあります。

構成例 1

以下は、最も基本的な構成例です。

RealShot Manager Advanced (Server) がインストールされたコンピューター すべての設定や操作を行います。

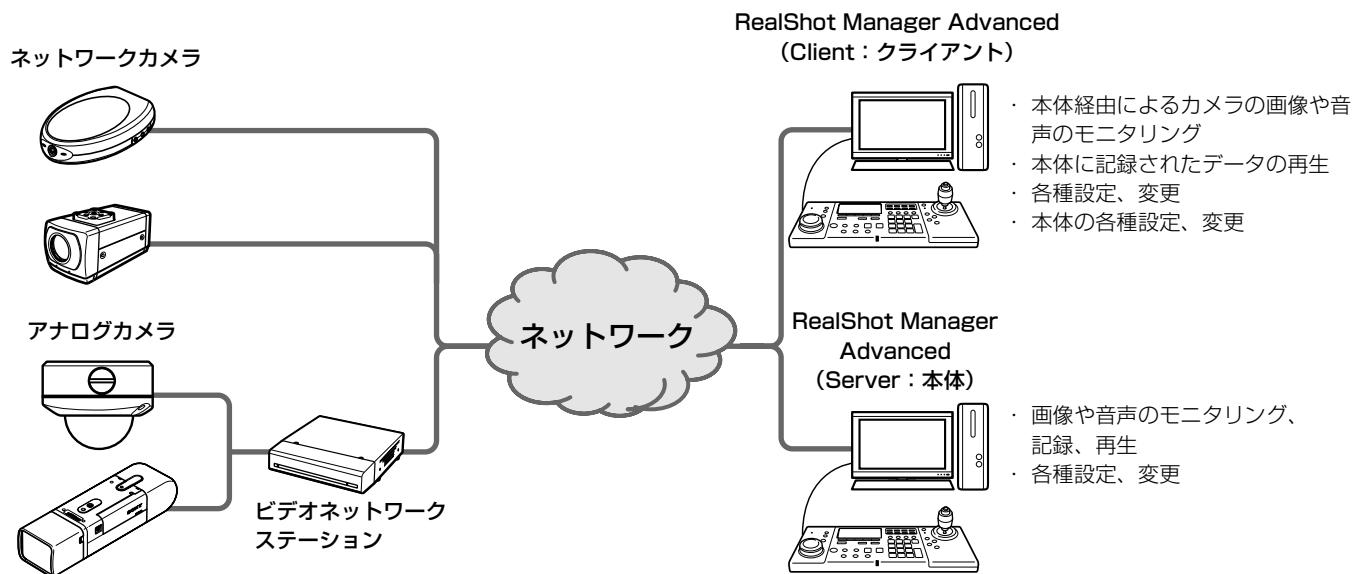


メモ

- 1台のカメラに接続できる RealShot Manager Lite または RealShot Manager Advanced (Server) の数は 1 つです。
なお、RealShot Manager Advanced (Server) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。
- RealShot Manager Advanced は、システムコントローラー RM-NS1000 に対応しています。

構成例 2

複数のコンピューターに、用途に応じた RealShot Manager Advanced をインストールし、複数のコンピューターでモニタリングするカメラや記録データを共有します。

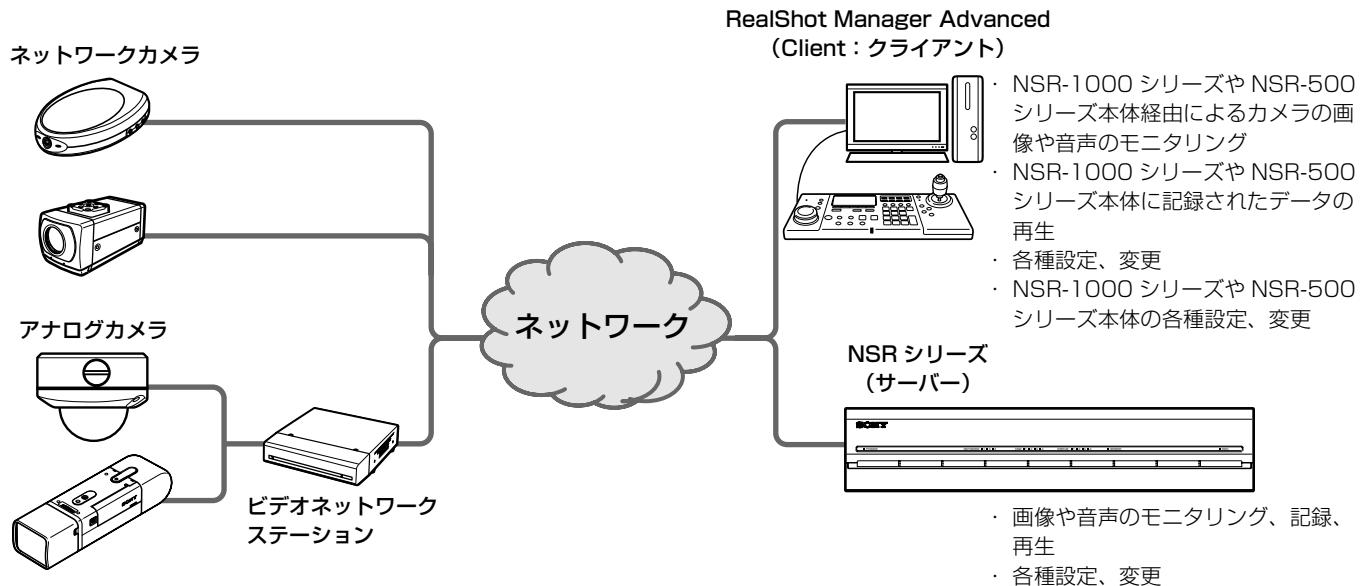


メモ

- ・同一ネットワーク上に RealShot Manager Advanced (Server) がインストールされているコンピューターが必要です。
- ・コンピューターにインストールした RealShot Manager Advanced (Server) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。
- ・RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Advanced (Client) の構成で使用する場合は、RealShot Manager Advanced (Server) でマスターサーバーの設定とユーザーの作成が必要です。必要な設定については、『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。
- ・RealShot Manager Advanced (Server) に接続するクライアントの数が増えると、サーバーの負荷が高くなります。
- ・RealShot Manager Advanced は、システムコントローラー RM-NS1000 に対応しています。

構成例 3

NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズのリモートクライアントとして RealShot Manager Advanced を使用する場合の例です。リモートクライアントとして使用するコンピューターに RealShot Manager Advanced (Client) をインストールし、マスターサーバーとなる NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズとモニタリングするカメラや記録データを共有します。



メモ

NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズのリモートクライアントとして RealShot Manager Advanced を使用する場合は、NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズでマスターサーバーの設定とユーザーの作成が必要です。必要な設定については、NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズの『設置説明書』および『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。

エンドユーザーライセンス契約

(注) 以下は英文版の「End User License Agreement」の参考訳であり、英文版の「End User License Agreement」が正式な契約文書となります。

以下に定めるエンドユーザーライセンス契約（以下、「本契約」といいます）は、ソニー株式会社（以下、「弊社」といいます）とお客様の間での法的な契約です。本契約に基づき、お客様は、弊社のネットワークカメラ用インテリジェントモニタリングソフトウェア「Real Shot Manager Advanced」（以下、「許諾ソフトウェア」といいます）の使用が可能になります。

エンドユーザーライセンス契約

第1条（使用権）

- 本契約の条件に従って、ソニーは、お客様に対して、許諾ソフトウェアの非独占的かつ譲渡不能かつ再許諾不能な使用権を許諾します。
- お客様は、1台のコンピュータにおいてのみ、許諾ソフトウェアをインストールすることができます。

第2条（権利の制限）

許諾ソフトウェアの使用許諾にあたっては、弊社が認める場合もしくは適用される法令で明示的に許されている場合を除いて、以下の制限を受けるものとします。

お客様は、

- 許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写することはできません。
- 態様の如何を問わず、許諾ソフトウェアを改変し、追加し、編集し、削除し、その他変更することはできません。
- 許諾ソフトウェアにつき、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行うことはできません。
- 許諾ソフトウェアの使用権を、有償無償を問わず、第三者に譲渡、転貸その他処分することはできません。
- 許諾ソフトウェアにつき、有償無償を問わず、譲渡、再許諾、再配布、担保設定その他処分することはできません。
- 許諾ソフトウェアに付されている著作権表示を削除、除去することはできません。

第3条（機能追加）

お客様は、ソニーに別途指示された金額を支払うことにより、許諾ソフトウェアに付された機能の制限解除もしくは許諾ソフトウェアへの機能追加をする権利を許諾された場合には、本契約の条件は、当該機能制限解除部分もしくは追加機能部分にも適用されるものとします。

第4条（権利）

許諾ソフトウェアに関する権利及び著作権は、ソニー及び／又はソニーに許諾ソフトウェアの使用もしくは再許諾を許諾した第三者に所有及び／又は管理されるものとします。本契約に基づき明確に許諾していない使用権以外の権利は、ソニーもしくは当該第三者が引き続き保有するものとします。

第5条（責任の制限）

- 許諾ソフトウェアは、現状有姿の状態で提供されます。ソニーは、お客様または第三者に対して、許諾ソフトウェアにエラー、瑕疵、あるいは不正確な点がないこと、または許諾ソフトウェアが完全に動作することの表明及び保証を行わないものとします。ソニーは、許諾ソフトウェアについて明示的、黙示的または法的な保証（商品性および特定の用途への適合性を含むがこれに限られない）を行わず、すべての黙示的保証から免責されるものとします。
- ソニーは、許諾ソフトウェアの使用により、第三者が所有する知的財産権を侵害しない、もしくは侵害を引き起こさないことを保証するものではありません。
- 許諾ソフトウェアを使用するコンピュータのセキュリティに関する責任は、お客様が負うものとします。
- ソニーは、許諾ソフトウェアを使用することによりお客様及び／又は第三者に生じた損害について、お客様及び／又は第三者に対して、賠償したり、損害を与えないようしたり防御したりしないものとします。
- ソニーは、お客様の許諾ソフトウェアの使用に起因する間接的、偶発的、結果的、特別もしくは懲罰的損害（得べかりし事業上もしくは個人の財産の喪失、データの喪失を含むがこれに限られない）に対する一切の責任を、たとえソニーが当該損害の可能性を認識していたとしても、負わないものとします。

第6条（終了）

- お客様が本契約の条項のいずれかに違反した場合、ソニーは本契約を直ちに解除することができるものとします。この解除は、ソニーがお客様に対して、損害賠償またはその他救済を請求する権利に何ら影響を与えるものではありません。
- 本契約が終了する場合、お客様は許諾ソフトウェアのすべての使用を中止し、そのすべてを廃棄するものとします。

3. 本契約が終了した場合でも第4条、第5条、第6条、第7条は引き続き効力を有するものとします。

第7条（一般条項）

1. 本契約は、日本国法に従い解釈されるものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアに適用される一切の輸出管理規制に関する法律、規則及び条約に従うことに同意するものとします。
3. 本契約の条件は、分割可能なものです。本契約のいずれかの条項が、本契約が実施されるある管轄において無効もしくは執行不能とされた場合であっても、当該条項以外は有効に存続し、執行可能なものとします。

MPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseについて

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

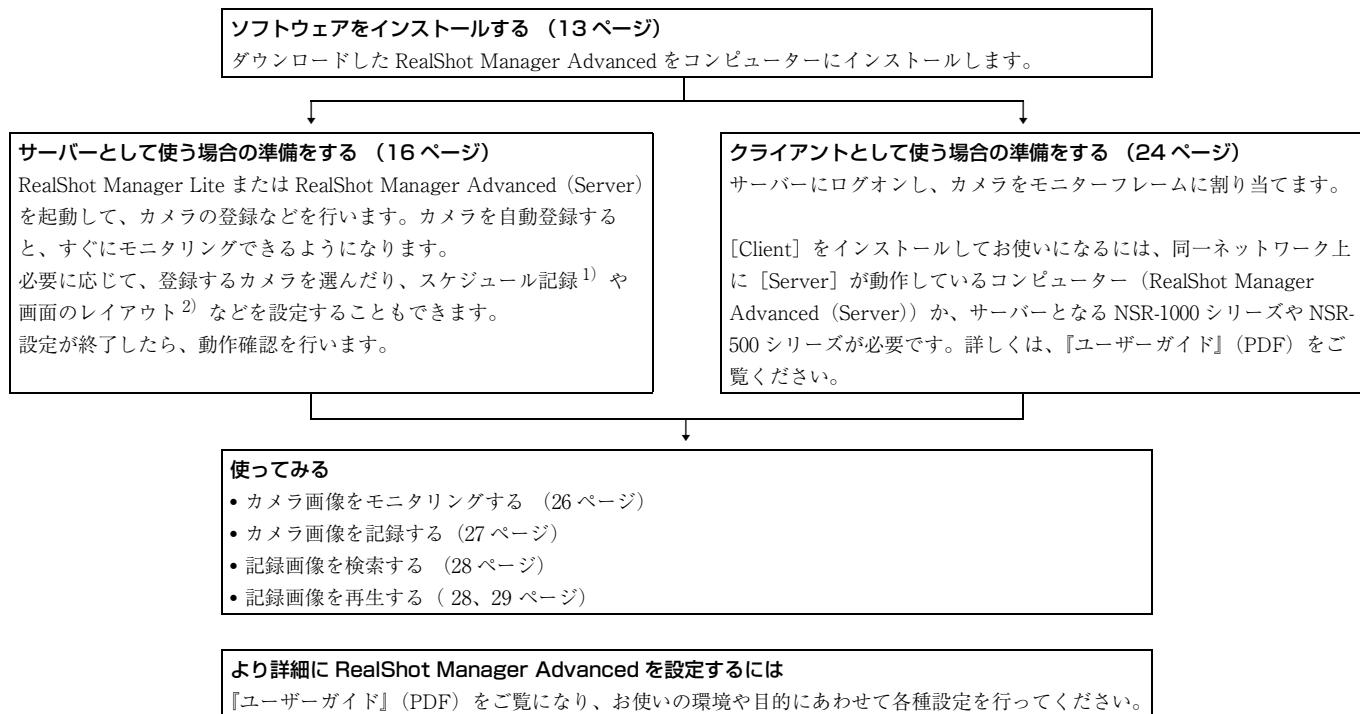
- (i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual 規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG 4 VIDEO といいます）にエンコードすること。
- (ii) MPEG-4 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ（HTTP://WWW.MPEGLA.COM）をご参照ください。

使えるようになるまでの流れ

ソフトウェアをインストールし、以下の順に行うと、RealShot Manager Advanced が使えるようになります。

RealShot Manager Advanced をサーバーとして使う場合と、クライアントとして使う場合とでは必要な設定が異なります。



1) スケジュールを設定して、規則的にカメラからの画像を記録することを「スケジュール記録」といいます。

2) カメラからの画像を表示する画面（モニターフレーム）の数や並べかたなどの設定を「レイアウト」といいます。

メモ

RealShot Manager Lite から RealShot Manager Advanced (Server) にアップグレードしたり、RealShot Manager Advanced (Server) を継続して使用するためには、ライセンスを購入していただく必要があります。ご購入については、お近くの「ソニー業務用製品」を取り扱っている特約店へご相談ください。

引き続き RealShot Manager Lite でお使いになる場合や、RealShot Manager Advanced (Client) は、ライセンスの購入は必要ありません。

ソフトウェアをインストールする

インストーラーを起動して、コンピューターにソフトウェアをインストールします。インストーラーは、以下のことを順に行います。

- PostgreSQL のインストール
- RealShot Manager Advanced のインストール

ソフトウェアをインストールする前に

- PostgreSQL の言語設定は、インストール時の OS の言語に合わせて設定されるため、OS を使用したい言語に切り替えてからインストールを実行してください。OS の言語を切り替えずにインストールを行った場合は、いったんアンインストールし、再度インストールしてください。アンインストールについては、「ソフトウェアをアンインストールするには」（30 ページ）をご覧ください。
- 管理者権限のあるユーザーアカウントで Windows にログオンしてください。
- 他のプログラムが起動している場合は、すべて終了させてください。
- すでに以前のバージョンの RealShot Manager がインストールされている場合など、条件によっては本バージョンの RealShot Manager Advanced がインストールできない場合があります。その場合は、以前のバージョンの RealShot Manager をアンインストールしてください。RealShot Manager のアンインストールについては、RealShot Manager の『ユーザーガイド』の「ソフトウェアをアンインストールするには」をご覧ください。
- 本バージョンの RealShot Manager Advanced のインストール後は、必ず Windows を再起動してください。

ご注意

- 新規に本バージョンの RealShot Manager Advanced をインストールする場合は、PostgreSQL がインストールされていないことが必要です。すでに PostgreSQL がインストールされている場合は、その PostgreSQL のドキュメントを参照し、完全にアンインストールしてから、RealShot Manager Advanced をインストールしてください。PostgreSQL を削除しないで RealShot Manager Advanced をインストールした場合は、アンインストールしてから、やり直してください。

- データベースは、RealShot Manager Advanced のインストールフォルダーの下に作成されます。RealShot Manager Advanced では、データベースの作成場所は変更できません。また、記録データの増加とともに、データベースのファイルサイズが大きくなりますので、ディスクの空き容量に注意してください。
- Windows のリモートデスクトップ機能などを使用している場合は、ソフトウェアのインストールができないことがあります。ソフトウェアをインストールするコンピューター上で、直接インストール作業を行ってください。

- 1 RealShot Manager Advanced のフォルダーにある「setup.exe」をダブルクリックする。

インストールウィザードが起動します。

- 2 [Next] をクリックする。

インストールに 5 分以上かかる場合があります。時間がかかると困る場合は、この時点で [Cancel] をクリックし、インストールを中止してください。



ソフトウェア使用許諾条件が表示されます。

ソフトウェア使用許諾条件は、本書の「エンドユーザーライセンス契約」（10 ページ）に同じ内容が日本語で記載されています。

- 3** 本書に記載されている「エンドユーザーライセンス契約」(10ページ)を読み、[I accept the terms in the license agreement]を選択して、[Next]をクリックする。

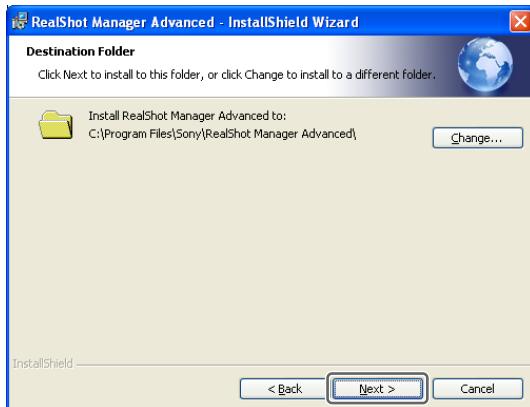
[I do not accept the terms in the license agreement]を選択した場合は、ソフトウェアのインストールは行われずに、ウィザードが終了します。



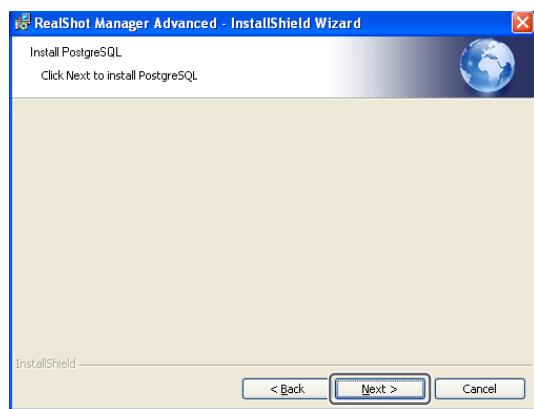
- 4** インストール先のフォルダーを選択し、[Next]をクリックする。

初期設定では、「C:\Program Files\Sony\RealShot Manager Advanced」が選択されています。

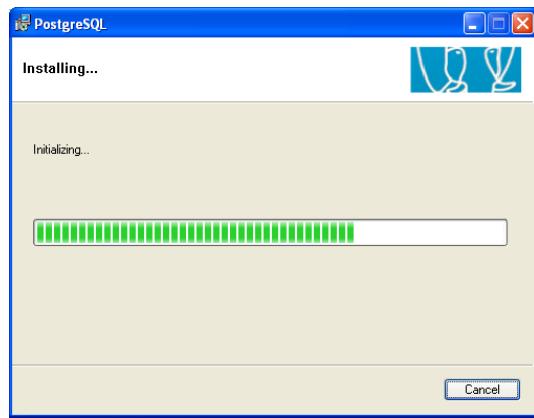
インストール先を変更する場合は、[Change]をクリックし、インストールするフォルダーを指定します。



- 5** [Next]をクリックする。

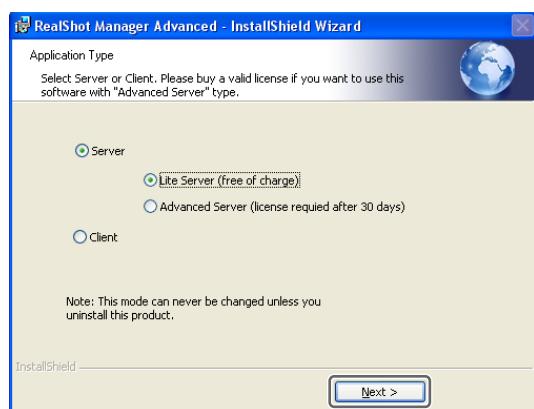


PostgreSQLのインストールが開始されます。



PostgreSQLのインストールが完了すると、続いて次の画面が表示されます。

- 6** インストールしたいRealShot Manager Advancedの種類を選択し、[Next]をクリックする。



メモ

[Client]をインストールしてお使いになるには、同一ネットワーク上に[Server]が動作しているコンピューター(RealShot Manager Advanced (Server))か、サーバーとなるNSR-1000シリーズやNSR-500シリーズが必要です。詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

7 インストールしたい言語を選択し、[Next] をクリックする。

複数の言語を選択できます。

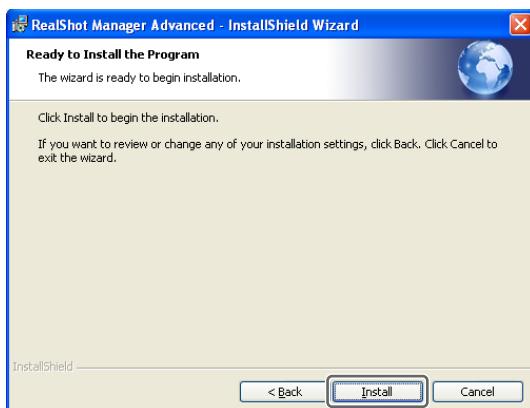
ご注意

ここで指定するのは、インストールする言語のモジュールです。RealShot Manager Advanced 起動時の言語の指定ではありません。RealShot Manager Advanced 起動時の言語の指定は、「管理メニュー」から設定できますが、ここで言語のモジュールをインストールしていないと、言語の指定ができません。

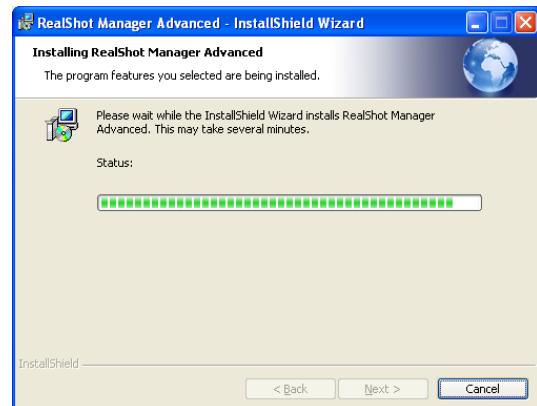


確認メッセージが表示されます。

8 [Install] をクリックする。



RealShot Manager Advanced のインストールが開始されます。

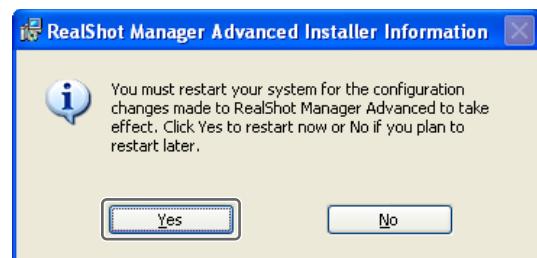


9 次の画面が表示されたら、[Finish] をクリックする。



以上でソフトウェアのインストールは完了です。

10 次の画面が表示されたら、[Yes] をクリックする。



コンピューターが再起動します。

サーバーとして使う場合の準備をする

RealShot Manager Lite の場合

RealShot Manager Lite を起動し、カメラを自動登録すると、すぐにモニタリングできるようになります。

- 1 [スタート] メニューをクリックし、[すべてのプログラム] – [RealShot Manager Advanced] – [RealShot Manager Advanced] をクリックする。

「カメラ自動登録」画面が表示されます。

- 2 [はい] をクリックする。

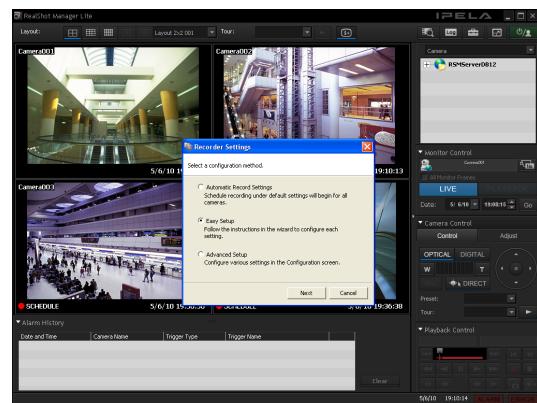


同一セグメントのネットワークに接続されているカメラが自動的に探索され、RealShot Manager Lite に登録されます。

メモ

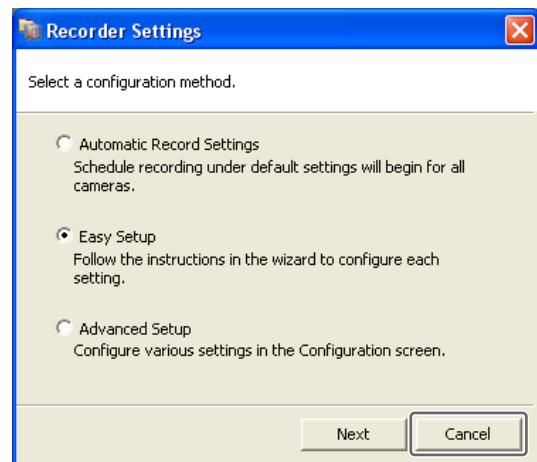
- ソニー製カメラを探索して登録します。
- IP アドレスの設定がお買い上げ時から変更されていないカメラが対象になります。IP アドレスを変更したカメラを登録するには、「簡単設定」(18 ページ) で登録するか、カメラの IP アドレスを工場出荷状態に戻してから、RealShot Manager Lite を再度起動してください。
- 複数のカメラが接続されている場合は、探索された順に 9 台まで登録されます。
- カメラを指定して登録したい場合は、[いいえ] をクリックし、「RealShot Manager Advanced (Server) の場合」(17 ページ) の手順 2 からを行ってください。
- [次回からこのダイアログを表示しない] にチェックマークを付けると、次回からこの画面は表示されず、カメラ探索も実行されません。一度チェックマークを付けた後で、カメラ自動登録を実行したい場合には、「管理メニュー」で、このダイアログを表示するように設定してください。「管理メニュー」については、『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。

「メイン」画面が表示され、カメラからの映像が表示されます。しばらくすると、「レコーダー設定」画面が表示されます。



- 3 特に記録設定などを行わない場合は [キャンセル] をクリックする。

設定を行う場合は、「RealShot Manager Advanced (Server) の場合」(17 ページ) の手順 2 に進んでください。



[キャンセル] を選択した場合は、「メイン」画面に戻ります。

「動作確認を行う」(23 ページ) に進んでください。

メモ

2回目以降の起動時に「ログオン」画面が表示されたときは、ユーザー名とパスワードを入力し、「ログオン」をクリックすると、「メイン」画面が表示されます。

初期設定ユーザー：admin

初期設定パスワード：admin

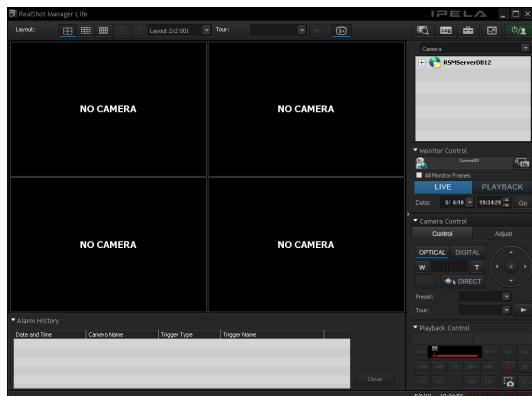


RealShot Manager Advanced (Server) の場合

RealShot Manager Advanced を起動し、ウィザード形式でカメラの登録や記録設定などを行います。

1 [スタート] メニューをクリックし、[すべてのプログラム] – [RealShot Manager Advanced] – [RealShot Manager Advanced] をクリックする。

初めて起動したときは、「メイン」画面が表示されます。



メモ

・「ログオン」画面が表示されたときは、ユーザー名とパスワードを入力し、「ログオン」をクリックすると、「メイン」画面が表示されます。

初期設定ユーザー：admin

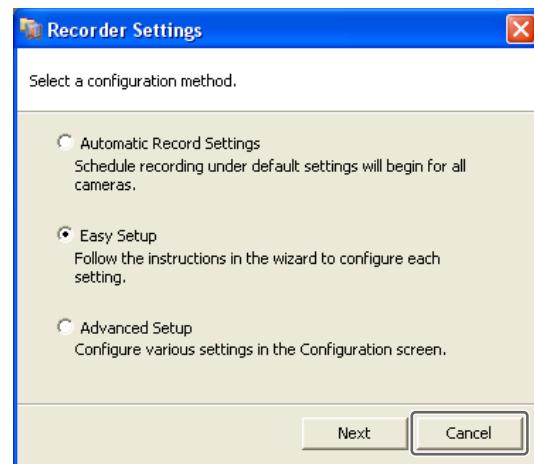
初期設定パスワード：admin



・自動ログオン機能を有効にするには、「管理メニュー」の「セットアップメニュー」から設定してください。

しばらくすると、「レコーダー設定」画面が表示されます。

2 設定方法を選択し、[次へ] をクリックする。



すべてのカメラに対してデフォルトのスケジュール記録を設定する場合は「自動記録設定」を、ウィザードに従って登録するカメラや記録の種類などを指定するときは「簡単設定」を選択します。

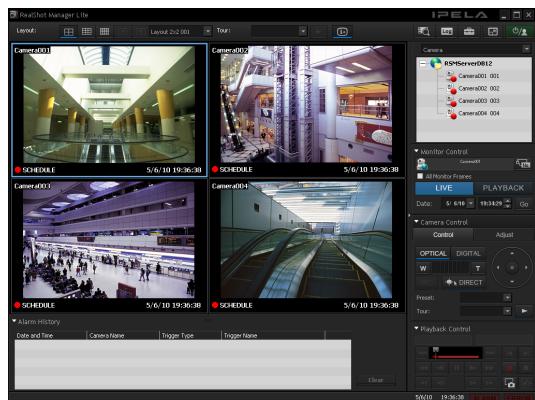
メモ

【詳細設定】については、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

設定方法に応じた画面が表示されます。

【自動記録設定】を選択した場合

「メイン」画面が表示され、すべてのカメラで自動的に記録が開始されます。



「動作確認を行う」（23 ページ）に進んでください。

メモ

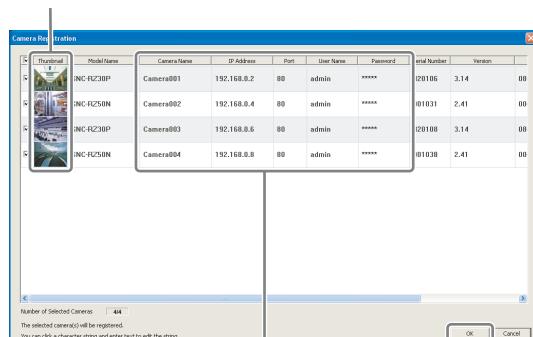
【戻る】をクリックすると、前の画面に戻って設定をやり直すことができます。

「カメラ登録」画面が表示されます。

② 登録するカメラにチェックマークを付け、[OK] をクリックする。

リストに表示されている順番でカメラが登録されます。

カメラからの画像が表示されます。



文字列をクリックして、値を入力し直すこともできます。

メモ

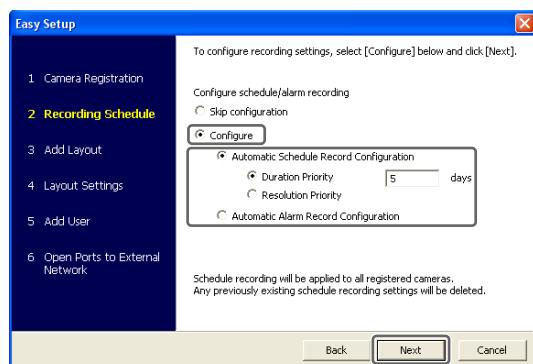
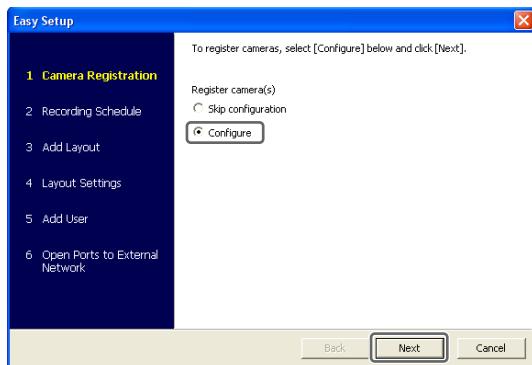
すでにカメラが登録されている場合にチェックマークをはずして [確定] をクリックすると、登録が削除されます。

「2 記録設定」に進みます。

2 記録設定を行う。

記録設定を行わない場合は、[スケジュール / アラーム記録を設定する] のチェックマークをはずした状態で [次へ] をクリックし、手順 3 に進んでください。

① [カメラを登録する] にチェックマークを付け、[次へ] をクリックする。



スケジュール記録自動設定

カメラの台数やストレージの空き容量などにより自動計算された設定で、スケジュール記録を行います。

ここを選択したときは、[記録日数優先] または [記録解像度優先] を選択してください。

記録日数優先

入力した保存期間に収まるように、スケジュール記録を設定します。

記録解像度優先

カメラの最大解像度でスケジュール記録を設定します。

アラーム記録自動設定

カメラの最大解像度でアラーム記録を設定します。

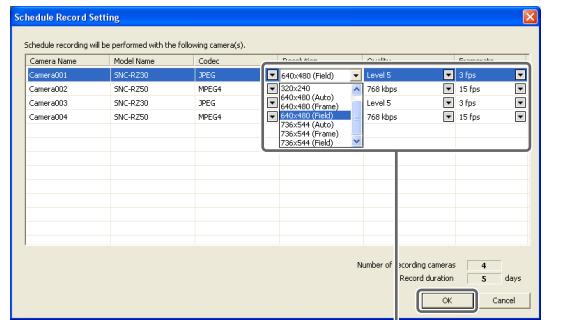
メモ

- スケジュール記録は、登録されているすべてのカメラに対して設定されます。
- すでにスケジュール記録が設定されている場合は、本設定で上書きされます。

設定内容を確認する画面が表示されます。

- ② 自動設定の内容を確認し、[OK] をクリックする。必要に応じて、コーデックや解像度などを変更できます。

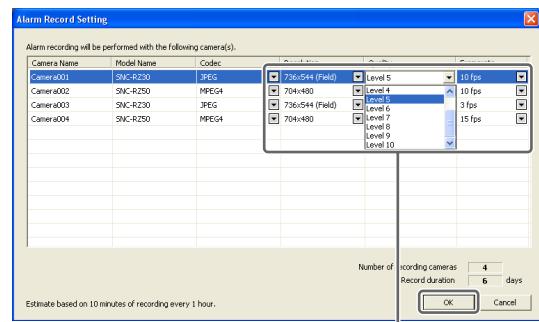
画面例) スケジュール記録自動設定の場合



▼をクリックし、設定を変更できます。

画面例) アラーム記録自動設定の場合

自動アラーム記録の場合も、保存期間の目安が表示されます。



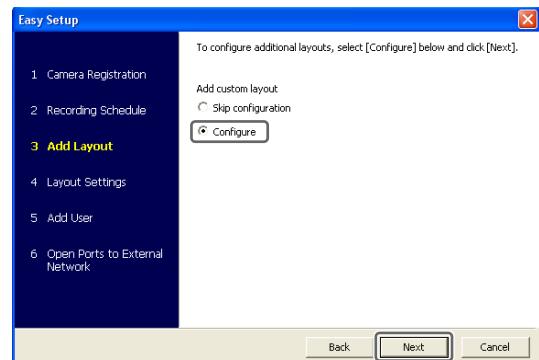
▼をクリックし、設定を変更できます。

「3 レイアウト作成」に進みます。

3 カスタムレイアウトを追加する。

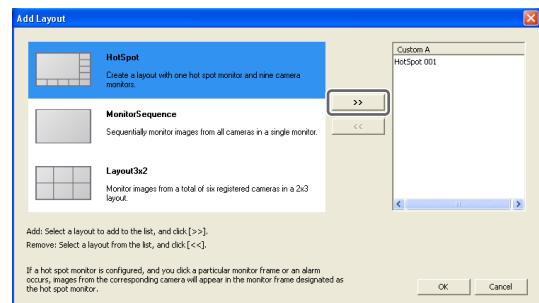
カスタムレイアウトを追加しない場合は、[カスタムレイアウトを追加する] のチェックマークをはずした状態で [次へ] をクリックし、手順 4 に進んでください。

- ① [カスタムレイアウトを追加する] にチェックマークを付け、[次へ] をクリックする。



「カスタムレイアウト設定詳細」画面が表示されます。

- ② レイアウトリストに追加したいレイアウトを選択し、>> をクリックする。



カスタムレイアウトが追加されます。

メモ

レイアウトリストからカスタムレイアウトを選択し、をクリックすると、リストから削除できます。

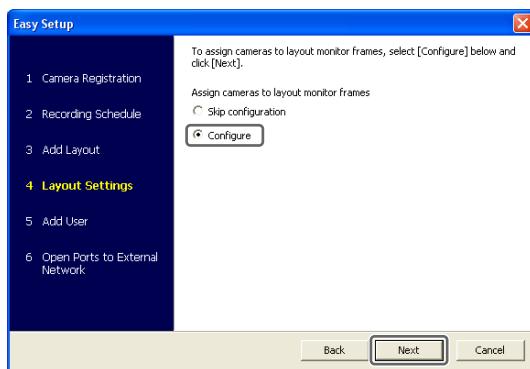
③ [OK] をクリックする。

「4 レイアウト設定」に進みます。

4 モニターフレームにカメラを割り当てる。

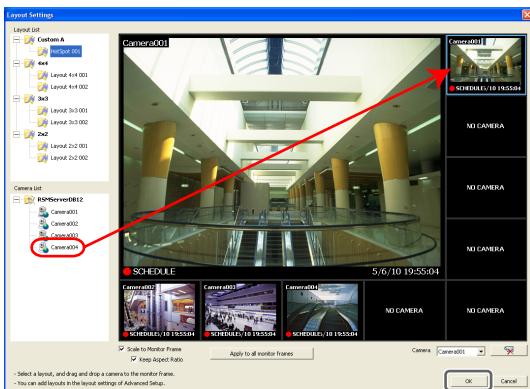
カメラの割り当てを行わない場合は、[レイアウトへカメラをアサインする] のチェックマークをはずした状態で [次へ] をクリックし、手順5に進んでください。

① [レイアウトへカメラをアサインする] にチェックマークを付け、[次へ] をクリックする。



「レイアウト設定詳細」画面が表示されます。

② [レイアウトリスト] でレイアウトを選択し、[カメラ] リストからモニターフレームにカメラをドラッグアンドドロップする。



モニターフレームにカメラが割り当てられます。

メモ

・モニターフレームに割り当てられているカメラを削除したいときは、モニターフレームを選択し、をクリックします。

- ・[モニターフレームに合わせる] にチェックマークを付けると、モニターフレームのサイズに合わせて、画像が拡大／縮小されます。
- ・[縦横比を保持] にチェックマークを付けると、モニターフレームの縦横比に関わらず、画像の縦横比が維持されます。

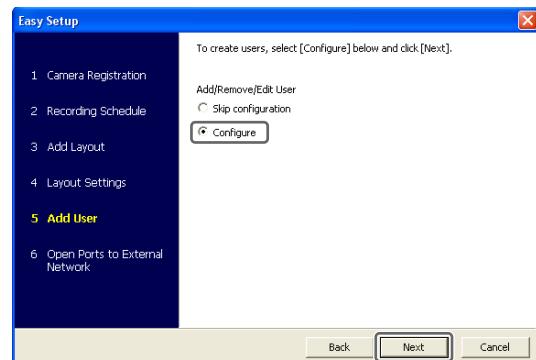
③ [OK] をクリックする。

「5 ユーザーの追加／削除／編集」に進みます。

5 ユーザーを登録し、ログオンするときのパスワードや各機能を使用する権限を設定する。

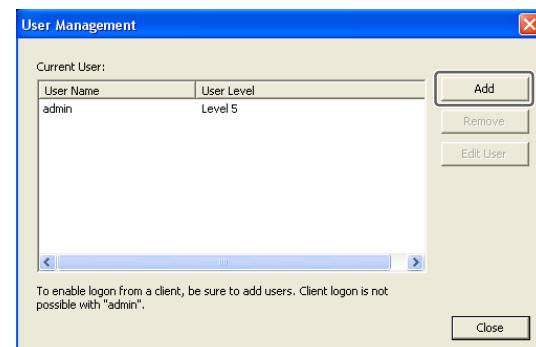
ユーザーの登録を行わない場合は、[ユーザー追加／削除を行う] のチェックマークをはずした状態で [次へ] をクリックし、手順5に進んでください。

① [ユーザー追加／削除を行う] にチェックマークを付け、[次へ] をクリックする。



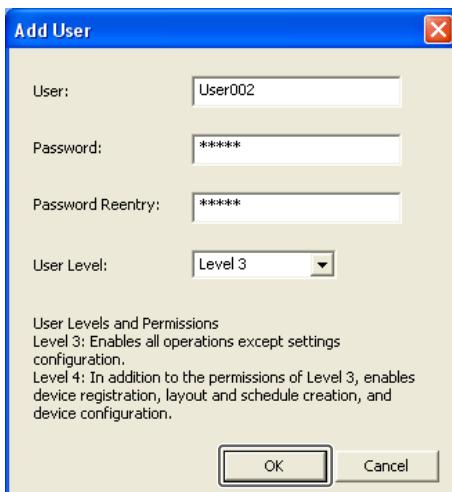
「ユーザー追加」画面が表示されます。

② [追加] をクリックする。



「ユーザー追加」画面が表示されます。

③各項目を設定し、[OK] をクリックする。



ユーザー

RealShot Manager Advanced にログオンするときのユーザー名を 32 文字以内の半角英数字、- (ハイフン)、_ (アンダーバー) で入力します。

ユーザー名の大文字／小文字は区別されます。

パスワード

RealShot Manager Advanced にログオンするときのパスワードを 32 文字以内の半角英数字、- (ハイフン)、_ (アンダーバー) で入力します。

パスワードの大文字／小文字は区別されます。

パスワード確認

確認のため、同じパスワードをもう一度入力します。

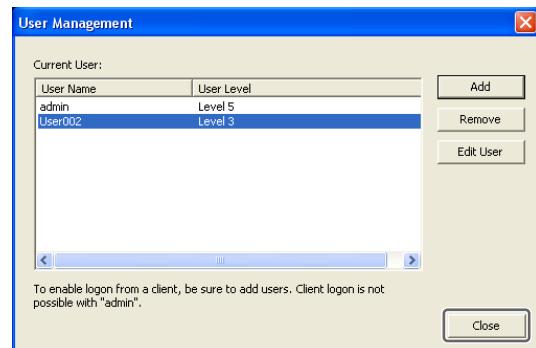
レベル

このユーザーに与える権限を選択します。

ユーザー レベルと権限の詳細については、『ユーザー ガイド』(PDF) をご覧ください。

「ユーザー追加」画面のリストにユーザーが追加されます。

④[閉じる] をクリックする。



「外部ネットワークへのポート公開」に進みます。

6 外部ネットワークにポートを公開するための設定を行う。

外部のネットワークから RealShot Manager Advanced にアクセスするためには、本設定が必要です。

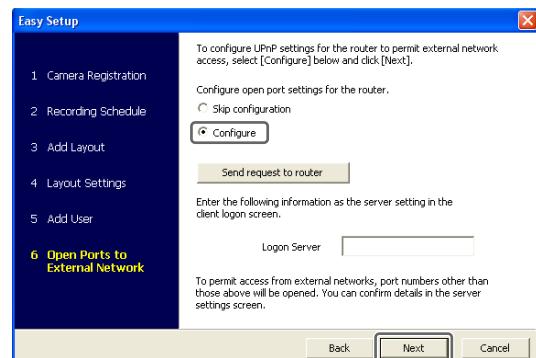
ルーターが UPnP 機能を持っている場合は、UPnP 機能を使用してルーターに設定できます。

- 本設定では、UPnP を使用して、すべて項目が自動設定されます。ポート番号を指定したい場合は、『ユーザー ガイド』(PDF) をご覧ください。
- UPnP を使用すると、ルーターでの設定作業が不要となります。

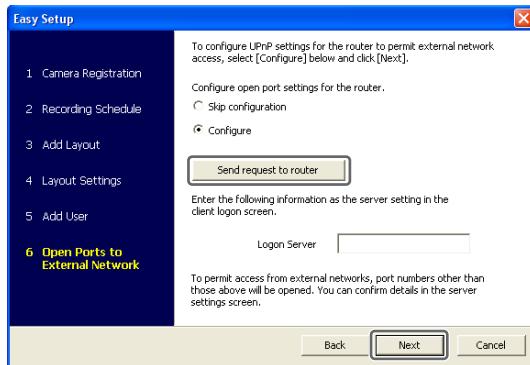
UPnP 対応のブロードバンドルーターを使用していない場合や、UPnP 機能を使用しない場合は、「管理メニュー」の [サーバー設定] で [NAT 設定] をクリックして表示される「NAT 設定」ダイアログで、設定を行ってください。詳しくは、『ユーザー ガイド』(PDF) をご覧ください。

外部のネットワークからアクセスしない場合は、本設定は不要です。[ルーターにポートを公開する設定を行います] のチェックマークをはずした状態で [次へ] をクリックし、手順 5 に進んでください。

① [ルーターにポートを公開する設定を行います] にチェックマークを付ける。



② [ルーターの要求送信] をクリックする。



③ [次へ] をクリックする。

ご注意

- インターネット側 (WAN 側) からのセキュリティを保つ場合、ルーターなどのファイアウォール機能によって、設定したポートのセキュリティが保たれていることを確認してください。¹⁾
- ルーターなどによってセキュリティが保たれていない場合は、WAN 側のポートから RealShot Manager Advanced にアクセスされることがあります。セキュリティを確保するため、定期的にパスワードを変更するなどして、他者からのログオンから守るための設定を行ってください。²⁾ パスワードの変更については、『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。
- RealShot Manager Advanced にログオンされた場合、以下のようなおそれがあります。³⁾
 - RealShot Manager Advanced の設定を変更される。
 - カメラからの画像や記録画像が閲覧されたり、操作されたりしてしまう。
- お使いのルーターや環境によっては、外部ネットワークから接続できない場合があります。

- 1) ルーターのセキュリティ設定については、ルーターの取扱説明書を参照するか、各ルーターメーカーにお問い合わせください。
- 2) パスワードの変更は、必ずしも他者からログオンされないことを保証するものではありません。
- 3) ソニー株式会社は、このような不利益がお客様に発生した場合、一切の責任を負いかねます。自己の責任において設定を行ってください。

「簡単設定終了」画面が表示されます。

7 [OK] をクリックする。



以上で簡単設定は終了です。

「メイン」画面が表示され、記録が開始されます。



「動作確認を行う」 (23 ページ) に進んでください。

簡単設定の設定値

簡単設定を行うと、各項目が以下の値に設定されます。

設定項目	スケジュール記録	アラーム記録
	記録日数優先	解像度優先
画像サイズ	D1 (アスペクト比が 4:3 の場合) 非対応の場合は 4CIF。 4CIF も非対応の場合は VGA。 1,280 × 720 (アスペクト比が 16:9 の場合) 非対応の場合は 1,280 × 720 より小さい次の 16:9 の解像度。	1,920 × 1,080 非対応の場合は 1,280 × 720。1,280 × 720 も非対応の場合は最大解像度 (ただし 1,280 × 960 以下)。
コーデック	以下の優先順位で設定されます。 ¹⁾ H.264 > MPEG4 > JPEG	以下の優先順位で設定されます。 ¹⁾ H.264 > MPEG4 > JPEG
フレームレート	JPEG の場合： 記録データの保存期間による。 H.264/MPEG4 の場合： ビットレートによる。	10 fps
画質	50% レベル 3 (5 段階設定のカメラ) レベル 5 (10 段階設定のカメラ)	50% レベル 3 (5 段階設定のカメラ) レベル 5 (10 段階設定のカメラ)
ビットレート	記録データの保存期間による。	H.264/MPEG4 3 Mbps
記録のトリガー	-	VMD (カメラ) ²⁾ VMD (レコーダー) ³⁾ JPEG の場合：標準モード MPEG4、H.264 の場合：高性能モード
データ保存先	既存の設定から変更されません。	既存の設定から変更されません。
音声	無効	無効
データ上書き	既存の設定から変更されません。(初期設定：しきい値は記録容量の 15%)	既存の設定から変更されません。(初期設定：しきい値は記録容量の 15%)
クリーンアップ	既存の設定から変更されません。(初期設定：無効)	既存の設定から変更されません。(初期設定：無効)

- ただし、以下のカメラは H.264 ではなく、MPEG4 で設定します。
SNC-RZ50/CS50/RX530/RX550/RX570/DF50/DF80/DF85
- RealShot Manager Lite は VMD (カメラ) のみ有効。
- カメラが VMD (カメラ) に対応していない場合、RealShot Manager Advanced では VMD (レコーダー) を使用。

ご注意

- すでにスケジュール記録やアラーム記録が設定されている場合に「記録自動設定」を実行すると、自動設定の内容に変更されます。
- カメラの記録先を意図的に変更した場合は、再度簡単設定を行うことで、各設定項目が再計算されます。自動再計算はされません。

個別に設定が必要な項目について

以下のような場合は、別途設定が必要です。

記録先の設定に関して

簡単設定では、デフォルトの記録先に記録するように設定されます。他の記録先を設定したい場合は、『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。

複数の NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズ、RealShot Manager Advanced サーバーでシステムを構築する場合

複数のサーバーにまたがる場合は、別途設定が必要になります。詳しくは『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。

カメラの音声設定

簡単設定では、音声は無効になります。音声を有効にしたい場合は、『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。

動作確認を行う

一通りの設定が終了したら、メイン画面でカメラからの画像が表示されるかなどを確認します。



- ① レイアウトを変更し、登録されたカメラの画像を表示する。
「カメラ」リストからカメラをモニターフレームにドラッグ&ドロップすると、カメラからの画像を表示できます。

- ② モニターフレームをクリックしてアクティブ（水色枠）にし、「カメラコントロール」ペインの「[コントロール]タブで、パン、チルト、ズーム操作を行う。
- ③ 簡単設定でアラーム記録設定を行なった場合は、カメラの前で物体を通過させ、アラームが発生することを確認する。
モニターフレームに赤枠が表示され、画面下部の「アラーム履歴」表示部に該当履歴が残ります。
- ④ 『ユーザーガイド』（PDF）を参照し、各種操作を行う。
- ⑤ [PLAYBACK] をクリックし、記録を再生する。
[PLAYBACK] をクリックすると、あらかじめ設定された時間だけ自動的に巻き戻して再生されます（クイック Playback）。
また、日時を入力して [GO] をクリックすると、記録された画像が再生されます。
- ⑥ 画面右下の [ERROR] ランプをクリックし、問題が発生していないか確認する。
[ERROR] ランプをクリックするとシステムログが表示されますので、問題が発生していないかログの内容を確認します。
- メイン画面の操作については、『ユーザーガイド』（PDF）をご覧ください。

ご注意

Windows OS の電源設定で、スリープや休止状態が設定されている場合、一定時間マウスやキー操作を行わないと、スリープや休止状態に入ります。あらかじめ電源設定でスリープや休止状態の設定は解除してください。

クライアントとして使う場合の準備をする

サーバーを指定して RealShot Manager Advanced にログオンし、カメラをモニターフレームに割り当てます。

ログオンする

- 1 [スタート] メニューをクリックし、[すべてのプログラム] - [RealShot Manager Advanced] - [RealShot Manager Advanced] をクリックする。
「ログオン」画面が表示されます。

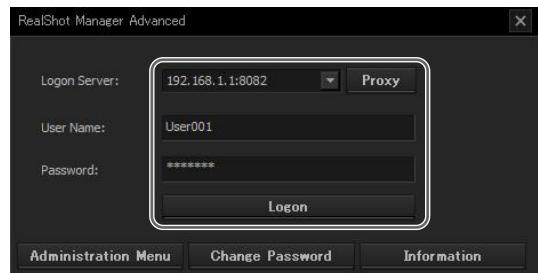
- 2 次の項目を入力し、[ログオン] をクリックする。

ログオンサーバー：マスターサーバーの IP アドレス
ポートはサーバーで設定されたセントラルサーバーの値を指定してください。なお、初期値は「8082」です。

サーバーの IP アドレスが
192.168.1.1 の場合には、下図のよう
に「192.168.1.1:8082」で指定し
ます。

ユーザー名：サーバーで設定されているユーザー名

パスワード：サーバーで設定されているパスワード



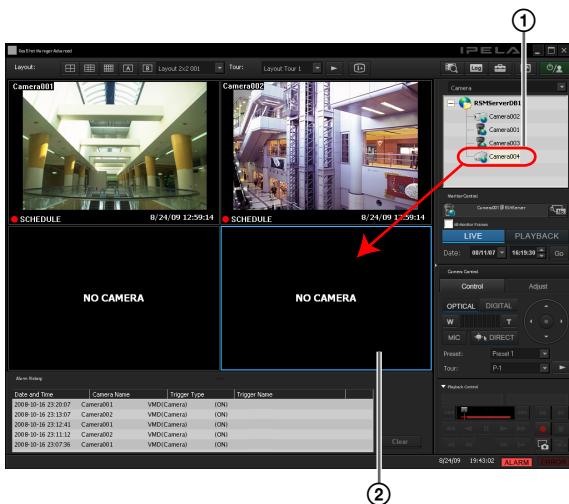
ログオンに成功すると、メイン画面が表示されます。
次の「カメラをモニターフレームに割り当てる」に進んでください。

カメラをモニターフレームに割り当てる

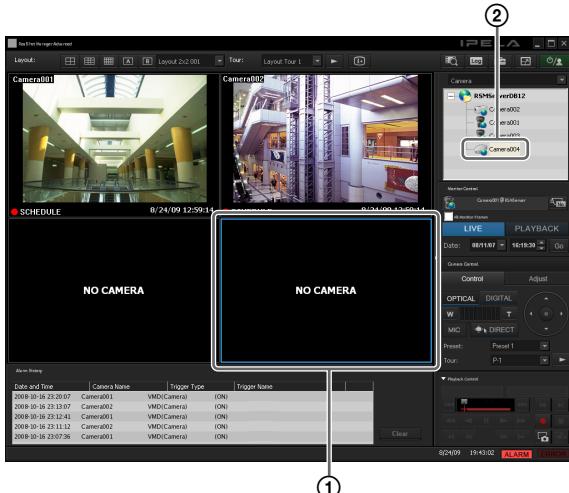
メイン画面で、サーバーに接続されているカメラをモニターフレームに割り当てます。

カメラを割り当てるには、2通りの方法があります。

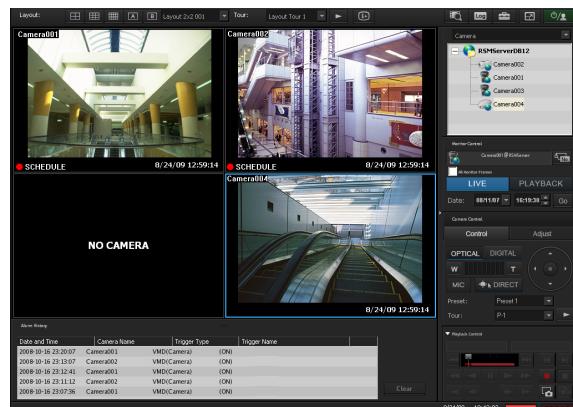
- 「カメラ」リスト (①) から本機に接続されているカメラをモニターフレームにドラッグ&ドロップする (②)。



- モニターフレームをクリックして選択してから (①)、「カメラ」リストでカメラをダブルクリックする (②)。



割り当てたカメラに自動的に接続され、カメラの画像がモニターフレームに表示されます。



カメラ画像をモニタリングする

ここでは、カメラからの画像をモニタリングする手順をおまかに説明します。
詳しい操作のしかたやその他の機能については、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

- 1 メイン画面で、ライブ画像を表示するモニターフレームをクリックして選択する。
- 2 「モニターコントロール」ペインの [LIVE] をクリックする。

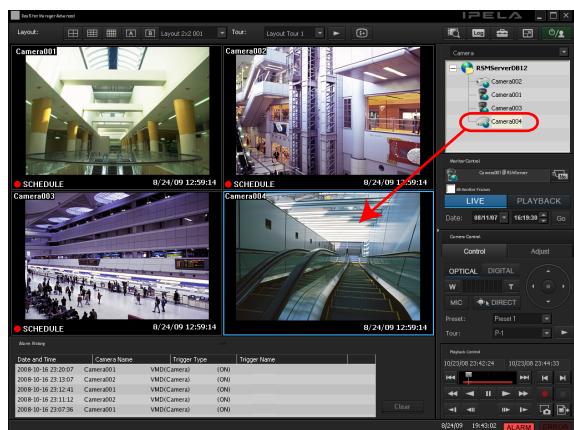


選択したモニターフレームにライブ画像が表示されます。

別のカメラの画像をモニタリングするには

「カメラ」リストでカメラを選択し、モニターフレームにドラッグ＆ドロップすると、選択したカメラの画像に切り替わります。

モニターフレームをクリックして選択し、「カメラ」リストでカメラをダブルクリックしても、選択したカメラの画像に切り替えできます。



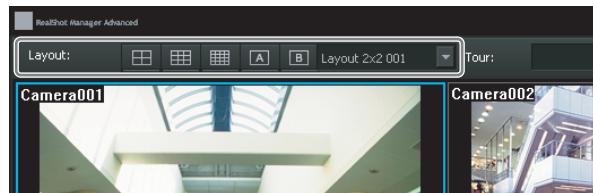
メモ

「カメラ」リストが表示されていないときは、をクリックし、表示されるメニューで「カメラ」を選択すると、「カメラ」リストに切り替わります。



レイアウトを変更するには

メイン画面上部の「レイアウト」ツールバーで、レイアウトを選択すると、レイアウトが切り替わります。



カメラをコントロールするには

パン・チルト機能を備えたカメラの場合は、画面右側にある「カメラコントロール」ペインを使って、パン、チルト、ズームの操作をしながらカメラからの画像をモニタリングできます。



Ⓐ カメラを向きを上下左右、斜めに動かします。

Ⓑ 広角側、望遠側にズームします。

Ⓒ [DIRECT] をクリックすると、モニターフレーム内でドラッグして指定した範囲がズームインされます。

各ボタンの詳しい使いかたについては、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

メモ

マウスやリモコンを使ってカメラをコントロールすることもできます。詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

画像を記録・検索・再生する

ライブ画像を記録したり、記録済みの画像データや音声データを検索して再生できます。

ご注意

記録用に RealShot Manager Advanced を使用しているコンピューターでは、原則として他のアプリケーションを使用しないでください。

メモ

スケジュールを設定して、カメラの画像を記録することもできます。詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

ライブ画像を記録する

現在カメラが撮影している画像を記録できます。

- 1 ライブ画像を記録したいモニターフレームを選択する。
- 2 ライブ画像が表示されていない場合は、「モニターコントロール」ペインの [LIVE] をクリックする。



- 3 「再生コントロール」ペインの  (記録開始) をクリックする。



記録が開始されます。

メモ

レイアウトを変更しても、記録は継続されます。

- 4 記録を停止するときは、 (記録停止) をクリックする。

記録が停止します。

記録画像を再生する

指定した時間分を自動的に巻き戻して再生するクイック再生や、再生位置を日時で指定したり、アラーム履歴から再生するなど、簡単な操作で記録画像を再生できます。

クイック再生

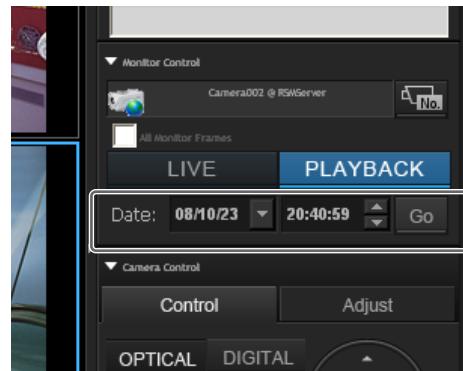
モニターフレームをクリックして選択し、[PLAYBACK] をクリックすると、あらかじめ設定されている時間分だけ巻き戻して自動的に記録画像が再生されます。

日時を指定して再生する

記録画像の再生位置を日時で指定できます。

- 1 記録画像を再生したいカメラが割り当てられているモニターフレームをクリックして選択する。

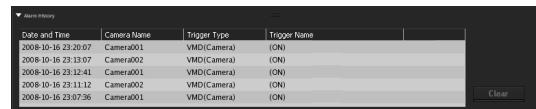
- 2 「モニターコントロール」ペインの [日時] で日付と時刻を指定し、[GO] をクリックする。



指定した時刻のフレームが表示されます。

アラーム履歴から再生する

- 1 記録画像を再生したいモニターフレームをクリックして選択する。
- 2 「アラーム履歴」ペインで、アラーム履歴をダブルクリックする。



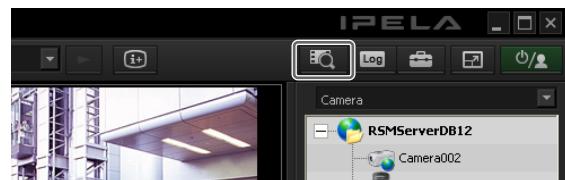
記録画像が再生されます。

記録画像を検索する

以前に記録した画像や音声は、記録したカメラや日時で検索して再生できます。

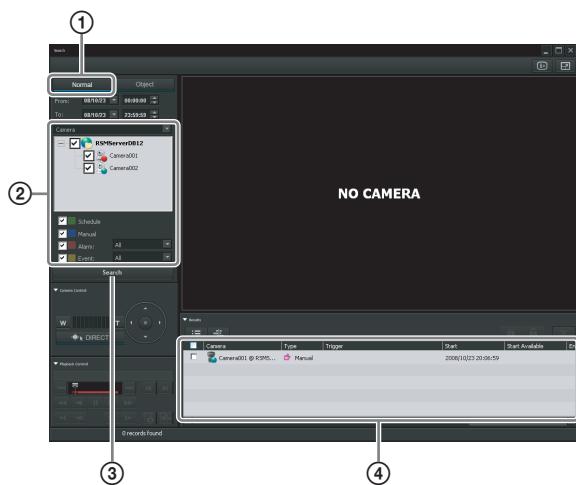
ここでは、記録の検索、再生についておおまかに説明します。詳しい操作やその他の機能については『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

- 1 メイン画面上部の  (記録画像の検索) をクリックする。



「検索」画面が表示されます。

2 検索条件を指定し、[検索] をクリックする。



① [ノーマル] をクリックする。

② 検索条件を指定する。

③ [検索] をクリックする。

検索結果が一覧表示されます (④)。

検索結果から記録画像を再生できます。詳しくは、「検索結果から再生する」 (29 ページ) をご覧ください。

④ ▶ (再生) をクリックする。

モニターフレームに記録画像が再生されます。

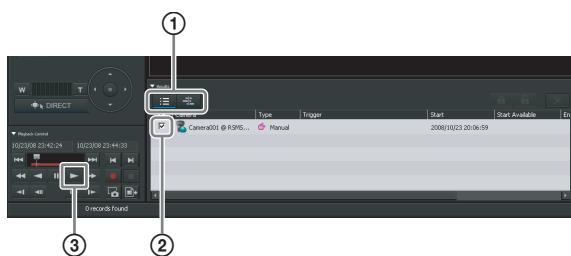
「画像コントロール」ペインや「再生コントロール」ペインで、画像の拡大／縮小や早送り、巻き戻しなどの操作ができます。

検索結果から再生する

1 「検索」画面で、記録画像を検索する。

2 記録画像を再生する。

画面例) リスト表示



① 必要に応じて、タイムライン表示またはリスト表示に切り替える。

① (リストモード) をクリックするとリスト表示に、② (タイムラインモード) をクリックするとタイムライン表示に切り替わります。

② 再生したい記録画像にチェックマークを付ける。

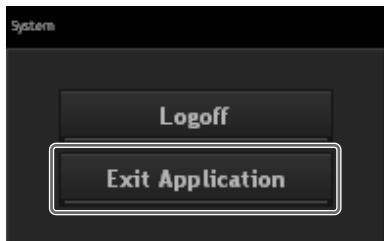
ソフトウェアを終了する

- 1 メイン画面右上の  をクリックする。



次の画面が表示されます。

- 2 [アプリケーション終了] をクリックする。



RealShot Manager Advanced が終了します。

ご注意

ユーザー管理を行っている場合、RealShot Manager Advanced を終了できるのは、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーだけになります。ユーザー管理を行っている場合は、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーでログオンしてから終了してください。「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーがない場合は、RealShot Manager Advanced を終了できませんので注意してください。

ソフトウェアをアンインストールするには

ソフトウェアをアンインストールする場合は、以下の順に行ってください。

RealShot Manager Advanced をアンインストールする

PostgreSQL をアンインストールする

データを削除する

アンインストールする前に

- ・アンインストールは、管理者権限のあるユーザーで Windows にログオンして行ってください。
- ・他のプログラムが起動している場合は、すべて終了させてください。

ここでは例として、Windows XP での手順を説明します。

RealShot Manager Advanced をアンインストールする

一般的なソフトウェアと同様に、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールしてください。

PostgreSQL をアンインストールする

一般的なソフトウェアと同様に、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールしてください。

データを削除する

PostgreSQL や RealShot Manager Advanced をアンインストールしてもデータは削除されませんので、手動で行ってください。

- 1 RealShot Manager Advanced のインストールフォルダーを削除する。
- 2 記録データの記録先フォルダーを削除する。

トラブルシューティング

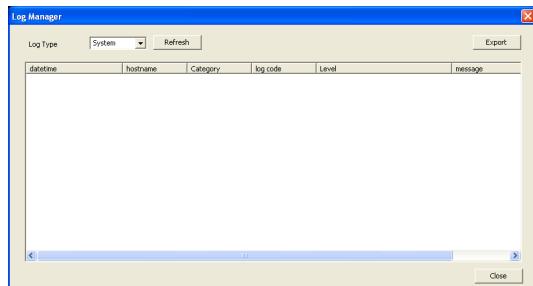
ログについて

RealShot Manager Advanced では、「ログ」 ウィンドウで最近のログメッセージを見ることができます。

「ログ」 ウィンドウ

メイン画面の **Log** (ログの表示) をクリックすると表示されます。

各メッセージには、日付やログの発生元のカメラまたはアプリケーションが表示されます。[message] の欄には、ログが発生した理由が表示されます。



詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。

エラーメッセージ

ライセンスエラー

有効なソフトウェアライセンスがインストールされていない状態で RealShot Manager Advanced を起動すると、「30日試用版」または RealShot Manager Lite で起動されます。

ライセンスが正しくインストールされていることを確認するには

ログオン画面で [情報] を選択し、表示されるダイアログに使用可能なカメラ数が表示されていれば、ライセンスが正しくインストールされています。



ご注意

ライセンスファイルを RealShot Manager Advanced のインストールフォルダーにコピーした後、コンピューターの再起動が必要です。

モニターフレームに「未接続」と表示される

このメッセージは、ネットワークを介してカメラと通信できないときに表示されます。次の項目を確認してください。

- カメラの電源がオフになっている。
→ カメラの電源をオンにしてください。
- RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピューターとカメラ間の接続が確立されていない。
→ 接続設定を確認してください。詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF) をご覧ください。
- RealShot Manager Advanced におけるカメラの設定が正しくない。
→ 『ユーザーガイド』(PDF) を参照し、カメラの設定を確認してください。
- カメラにおけるカメラの設定が正しくない。
→ それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。

- プロキシサーバーを介してネットワークに接続している場合、カメラの詳細登録が正しくない。
→ プロキシサーバーの詳細設定を確認してください。詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

ネットワーク接続を確認するには (ping を使って確認する)

ping コマンドを使って、カメラがネットワークに接続されているか、コンピューターからカメラが見えるかテストできます。

1 Windows で「コマンドプロンプト」を開く。

[スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選んで「cmd」と入力するか、Windows キー + R キーで「ファイル名を指定して実行」を開き「cmd」と入力します。

2 次のように入力する。

ping <カメラの IP アドレス>

正しく接続されているとき

「Reply from 192.168.0.110:bytes=32time<1ms TTL=128」の下に、以下のようなメッセージが表示されます。

```
C:\>ping 192.168.0.110
Pinging 192.168.0.110 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.110: bytes=32 time<1ms TTL=128

Ping statistics for 192.168.0.110:
Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

接続されていないとき

以下のように、「Request timed out.」が表示されます。

```
C:\>ping 192.168.0.100
Pinging 192.168.0.100 with 32 bytes of data:
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

Ping statistics for 192.168.0.100:
Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),
```

カメラと RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピューターとの間の接続に、ルーターやパッチパネルなど、他のデバイスを介しているときは、そのデバイスが正しく機能しているか確認してください。

その他

最大フレームレートで表示・記録できない

ネットワーク関連に問題があったり、カメラ側の設定や RealShot Manager Advanced の設定値が正しくない場合は、以下のようなことが考えられます。

- ネットワークの接続環境や RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピューターに対して、カメラの解像度や画質に設定が高すぎる。
→ 『ユーザーガイド』(PDF) を参照し、カメラの設定を確認してください。
- カメラのローカル設定で、最大値が制限されている。
→ それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 同時に複数のユーザーが画像を転送している。
→ ユーザーからのリクエストが多くなると、画像を転送するフレームレートとの最大値が低下することがあります。

画面に表示される画像の画質が非常に悪い

次の原因が考えられます。

- カメラの焦点が合っていない、またはレンズが汚れている。
- カメラの設定で、低解像度、低画質が選択されている。

カメラの焦点を調整するには

カメラの焦点を調整する機能がついている機種の場合は、RealShot Manager Advanced のメイン画面から、「カメラコントロール」ペインの「調整」タブで調整できます。詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

解像度と画質について

RealShot Manager Advanced のカメラ設定で低解像度に設定されているときに、大きなモニターフレームで表示すると、画質が悪くなります。例えば、カメラの解像度が 160×120 画素に設定されていて、モニターフレームが 800×600 に設定されている場合、画質が非常に悪くなります。

その場合は、次の方法で調整してください。

- 「レイアウト」画面の「オプション」タブで、拡大縮小の方法を変更します。詳しくは、『ユーザーガイド』(PDF)をご覧ください。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>